



# 好間中学校の地域住民等と連携した 防災教育

～誰ひとり取り残さない「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」への挑戦～

福島県いわき市 危機管理部災害対策課

## 1 はじめに

本市は、平成23年の東日本大震災、令和元年東日本台風、令和5年台風13号など、度重なる大規模自然災害に見舞われ、大きな被害を受けてきました。

災害による被害を最小化するためには、一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という自助の意識を強く持ち、災害時に取るべき行動を理解しておくことが、非常に大切であることを多くの市民が学びました。

いわき市立好間中学校でも「支援される人」から「支援する人へ」を目標に、発達段階に応じた防災教育に取り組んでいますので、紹介します。

## 2 取組みの背景

令和元年10月に令和元年東日本台風が本市を直撃し、本市初の「大雨特別警報」が発表されました。

好間中学校学区内で河川越水等により、多くの家屋が床上浸水被害を受けたことを教訓に、防災意識の高揚と生徒の防災知識の向上を図り、「自分の命は自分で守る」力を持つことができるよう、令和4年度から防災教育に取り組んでいます。

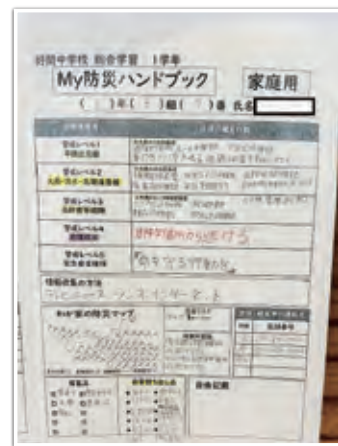
## 3 各学年の取組み内容

地域の災害の歴史、現在の災害リスクを学習した後に、学年ごとに4回、計12回にわたり実施しました。地域の自主防災会、消防団をはじめとした防災関係者、言わば「地元の

大先輩」にも参加いただき、地域密着型で取り組みました。

【1学年】自助力を高めるための「防災ハンドブック」の作成

自助力を高めるためには、日頃から災害への意識を高め、平常時から準備しておくことが重要です。防災マップの確認やマイ避難シートの作成を通じて備えの重要性を学び、自分だけの「防災ハンドブック」を作成しました。オリジナリティあふれる防災ハンドブックが完成し、生徒の自助力の強化が図られました。



最終ハンドブック成果品

【2学年】自助力を高め、共助力を育むための「地区防災マップ」の作成

普段何気なく歩いている通学路でも、防災の視点でまち歩きをしてみると、多くの危険が潜んでいます。地元の大先輩から様々なアドバイスをいただきながら、学校周辺の危険箇所を把握し、地区防災マップを作成しました。

生徒同士が協力して意見を出し合いながらまち歩きを行い、マップを作成したことで、自助力、共助力の強化が図られました。



地域の方とまち歩き

### 【3学年】共助力を高めるための「避難所運営マニュアル」の作成

避難所に指定されている当該中学校。災害時に共助の担い手として支援できるよう、避難所開設訓練等を実施するとともに、避難所開設マニュアルを作成しました。



避難所マニュアル成果品



異年齢交流

また、近隣保育園の避難訓練も併せて実施し異年齢交流に取り組みました。園児の避難所体験を生徒が誘導することで、災害弱者の避難の困難性を把握しました。その結果、未就学児への肯定的な感情を醸成することができ、養育者としての役割の理解が図られました。

## 4 防災教育の効果

学年ごとに異なる取組みを実施していますが、共通した効果として、防災知識の向上に加え、災害時に自分が取るべき行動や要配慮者への配慮について、深く考えるきっかけが生まれました。

また、大雨災害の際に、好間中学校に避難した生徒が、他の避難者に毛布を配付するなど、避難所運営に携り、市総合防災訓練にも地区の方々と一緒に避難所開設訓練等に自主的に参加するといった、主体性や社会性が育まれるとともに、地域で防災活動に取り組む方々と活動することで、郷土愛や地域を担う意識が育まれました。

加えて、防災庁設置に関する要望活動においても、本市の防災教育の取組み事例として提示したほか、防災イベント「そなえる・ふくしま2025」のメインステージにおいて、生徒自身が参加者に対して取組みを紹介するなど、防災分野において非常に注目される存在となっています。

## 5 終わりに

防災教育を経験した生徒が、今後も地域の防災に携わり、好中生発信でより多くの方が災害を「じぶんごと化」していただくことで地域防災力が強化されることを期待しています。

また、市が掲げる目標の「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」の実現に向け、今後も産学官民が連携した防災教育に取り組んでいきます。